

基本施策② 学齢期から青年期までの子ども・青少年の育成施策の推進

現状と課題

◆子ども・青少年育成施策の必要性

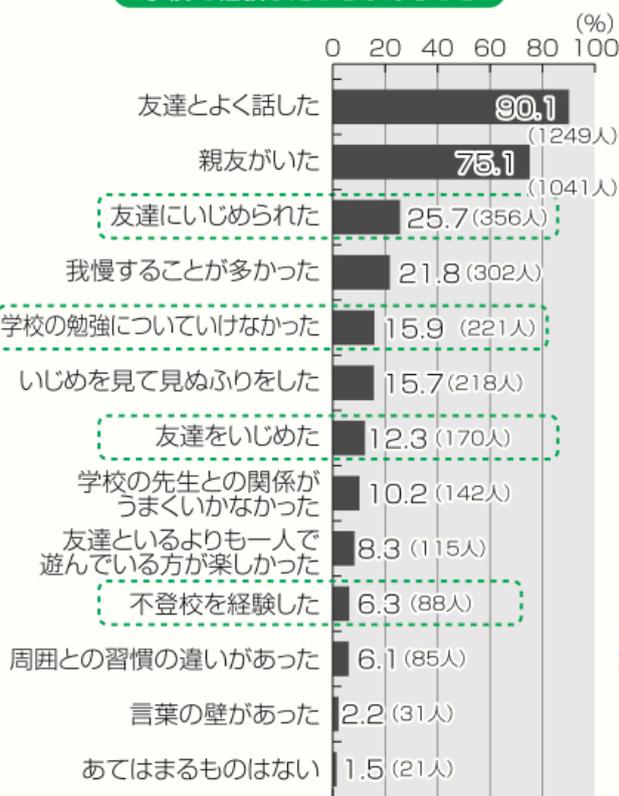
- 子ども・青少年の育ちは、乳幼児期からの育ちの積み重ねの先にあるものであり、子ども・青少年の育成を考える上で、この育ちの連続性を視野に入れることが非常に重要です。
- 学齢期は、生きる力を育み、心身の調和がとれた発達を図る重要な時期です。そのため、放課後等の活動を通じて社会性や自立性を身に付けられるようにしていくことが必要です。
- 一方、「第2章 本市の子ども・青少年や子育て家庭を取り巻く状況と課題」でも述べたように、世帯当たりの子どもの数の減少、単身世帯の増加といった家族のあり方の変化、地域での支え合いなどのつながりの希薄化、情報化社会の進展などにより、子ども・青少年が人とのつながりや支え合いの中で、自分のことを認めてくれる身近な人に出会い、自己肯定感を育んでいくことが難しくなっています。
- 自己肯定感の低下、他者とのつながりの希薄化、居場所がないことなどのリスクが背景にあることから、ちょっとしたつまずきにより、困難な状況がより深刻化する危険性が高まっています。
- いじめ、不登校、ひきこもり、経済的困窮、養育環境における課題など、様々な困難に直面している子ども・青少年に対して、安心して過ごすことのできる環境の中で、自己肯定感を持ち、自分らしさを発揮し、社会で自らの生き方を切り拓いていく力を身に付けられるよう、それぞれの状況に応じた切れ目のない支援を行う必要があります。

◆地域活動の活性化や人材の育成

- 学校以外の団体が行う自然体験活動への参加率が低下傾向にあるなど、近年、子どもの体験活動の場や機会の減少が指摘されています。子ども・青少年が様々な体験活動を通じて、自ら成功や失敗、思いどおりにいかないことに向き合う経験を重ねたり、様々な文化、知識、考え方等に触れて興味、関心を広げたりすることで、自主性や自己選択力を育ていけるよう、青少年育成のための活動の活性化と効果的な推進を図る必要があります。
- 子ども・青少年の育ちを支えるには、子ども・青少年育成に取り組む様々な関係機関や地域が連携して、子ども・青少年一人ひとりを理解し受け止めながら、継続して見守っていくことが重要です。そのため、子ども・青少年の育ちに関わる人々が子どもたちに適切な支援を行えるよう、人材を育成していく必要があります。
- 一方、子どもの育ちや青少年の社会参加を支援することは、地域における多世代交流や住民活動の活性化にもつながります。子ども・青少年の意見を大人が積極的に聞き、地域社会づくりに生かしていくことで、子どもも大人も暮らしやすく、活気にあふれるまちが生まれます。これまで以上に、小中学生・高校生等が地域の様々な活動に参加する機会を増やすことで、子ども・青少年の育成とまち全体の活力向上につなげていくことが望まれます。

家庭や学校で経験したこと

学校で経験したことがあること



家庭で経験したことがあること



※15歳から39歳の子ども・若者(3,000人)を対象にアンケート調査を実施。
「家庭や学校で経験したことがあること」を訪ねた設問の回答(複数回答可)

N=1386人

<出典>平成24年度 横浜市子ども・若者実態調査

【参考】 <学校で経験したこと>

- 「友達にいじめられた」(25.7%)、「友達をいじめた」(12.3%)、「学校の勉強についていけなかった」(15.9%)、「不登校を経験した」(6.3%)などの回答から、多くの子ども・若者が、人間関係や学業面、学校生活において、何らかのトラブルを抱えたことがあると考えられます。

<家庭で経験したこと>

- 「両親の関係がよくなかった」(10.4%)、「親と自分との関係がよくなかった」(6.9%)、「経済的に苦しい生活を送った」(6.1%)、「家からほとんど出ない状態が半年以上続いた」(1.9%)「親から虐待を受けた」(1.7%)などの回答から、家庭の養育環境において何らかの課題を有する可能性が高い子ども・若者が少なからず存在することも分かりました。

施策の目標・方向性

1 子ども・青少年が自らの生き方を考え、進路を選択する力が身に付けられる環境を整えます。

- 多様な人と関わらうとともに、様々な活動、文化、自然などに触れる機会を増やし、子ども・青少年が豊かな体験を通して、自ら社会性や進路を選択する力を身に付けられる環境を整えます。
- 小学校就学後の学齢期においては、子どもたちの健全な育成を図ることを目的とした放課後等における遊び・異学年の交流の場が必要です。このため、学校、家庭、地域がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ連携・協力し、様々な体験・交流活動の機会を提供します。
- 多様な人、様々な文化、知識、考え方、自然に触れ、子ども・青少年が心身共に健やかに成長できるよう、青少年関連施設、野外活動センター、プレイパーク等における活動機会、体験プログラム、日常的に体を動かす機会の拡充を図ります。
- 青少年の成長を支援し、社会参画に向かう力を育成するため、中学生・高校生世代を中心とした地域参画へのきっかけづくりや、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等を充実させていきます。

2 子ども・青少年を取り巻く課題に対し、育ちの連続性を視野に入れ、社会全体で早期発見、早期支援に取り組みます。

- 青少年の地域活動拠点や身近な居場所づくりを進め、学校、区役所、家庭、身近な居場所、関係機関等のネットワークづくりや地域との連携により、青少年の交流や地域資源を活用した体験活動を充実するとともに、青少年を取り巻く困難やリスクの早期発見、早期支援に取り組みます。
- いじめ、不登校、ひきこもり、経済的困窮、養育環境における課題など、困難を抱える子ども・青少年を取り巻く様々な課題に対し、学校、区役所、家庭、地域、関係機関等の連携による組織的な対応を図り、解決に向けて取り組みます。
- 放課後等においても、子どもの言動を十分理解し、支援を必要とする子ども及びその家庭を早期に発見し、学校、区役所及び専門機関との連携を図るとともに、地域や社会が保護者に寄り添い、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげることを通じて、子どもたちの健やかな成長を支援します。

3 子ども・青少年が将来に夢や希望を持ち、困難を乗り越えていけるよう支援します。

- 子ども・青少年の育ちは、乳幼児期からの育ちの積み重ねの先にあるものであるという視点を大切にしながら、子ども・青少年が将来に夢や希望を持ち、たとえ困難にぶつかったとしても、孤立することなく仲間や友人、周囲の大人たちの力を借りながら、一緒に解決し乗り越えていけるよう支援します。

◆指標

指標	直近の現状値	目標値 (31年度末)
青少年地域活動拠点の年間延べ利用人数	42,927人 (25年度)	142,200人
将来の夢や目標を持っている中学生の割合	71.8% (25年度)	75%以上

【コラム】学齢期の子どもたちの心配事って、誰に相談したらいいの？ どこに行ったらいいの？

学齢期のお子さんについて、相談できる場所・人は身近にあります。
例えば、各区役所のこども家庭支援課で「子ども・家庭支援相談」を行っています。

乳幼児期の子育てはもちろんのこと、学齢期のいじめ、不登校や思春期の子どものことなど、18歳までの子どもに関する相談に、保健師、教育相談員、学校カウンセラー、保育士が応じています。皆様の身近にある相談窓口としてお気軽にお声掛けください。



<こんな時には…>

- ・仕事と子育ての両立が難しく悩んでいます。
- ・しつけがうまくいかず子供を強くしかってしまいます。
- ・小学校への入学を前に集団生活になじめず心配です。
- ・中学に上がってから学校に行きたがらず困っています。

<ご相談には…>

- ・乳幼児から学童期・思春期まで幅広くお応えします。
 - ・保健・教育・福祉の相談員がいっしょに考えます。
 - ・いろいろな専門機関など、必要な情報を提供します。
- ※相談は無料です。秘密は厳守します。

このほか、教育総合相談センターや青少年相談センター（15歳以上が対象）でも、教育相談や不登校・ひきこもり等の相談に応じています。

また、障害のあるお子さんに関する相談については、各区役所こども家庭支援課のほか、障害者地域活動ホームや学齢後期障害児支援事業所等において対応しています。

なお、義務教育において、特別支援教育を必要とする判断や支援についての相談を希望する場合は、特別支援教育総合センターに御相談ください。

主な事業・取組 ※毎年度の事業費については、財政状況等を踏まえ、予算編成において決定します。

○青少年の地域活動拠点づくり事業

青少年の成長を支援するため、中学生・高校生世代を中心とした青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動を行うことができる「青少年の地域活動拠点」を民間ビルのスペースなどを活用して設置しています。

今後、学校・区役所・家庭・身近な居場所・関係機関等とのネットワークづくりや地域との連携により、青少年の交流や地域資源を活用した体験活動を充実するとともに、青少年を取り巻く困難やリスクの早期発見、早期支援に取り組みます。

	【直近の状況】	【31年度末の目標】
地域活動拠点の設置数	5か所 (25年度)	18か所

○青少年の自然・科学体験活動の推進

青少年の交流や体験活動を充実できるように、青少年施設や野外活動センター等における活動機会、体験プログラムの拡充を図ります。

	【直近の状況】	【31年度末の目標】
施設利用者及びプログラム等参加者数	397,577人 (25年度)	465,500人

○放課後児童育成事業（基本施策①の再掲） ※第5章に5年間の量の見込み、確保方策を記載

全ての子どもたちが豊かな放課後を過ごせるよう、様々な取組を実施します。

「はまっ子ふれあいスクール」は、全ての児童の創造性、自主性、社会性などを養うため、学校施設を利用して、異年齢児間の遊びを通じた交流を促進します。

「放課後児童クラブ」は、放課後児童健全育成事業として、保護者が労働等により、放課後に帰宅する時間帯に家庭にいない児童に対し、地域の理解と協力の下、放課後に安心して過ごせる場を提供します。

「放課後キッズクラブ」は、学校施設を利用し「はまっ子ふれあいスクール」の全ての児童の交流の場と「放課後児童クラブ」の留守家庭児童対応の場の役割を兼ね備えた事業として、安全で快適な放課後の居場所を提供します。

今後、全ての小学校で、はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの転換を進めるとともに、放課後児童クラブについて耐震化や面積確保等のための分割・移転等を進めます。

	【直近の状況】	【31年度末の目標】
①留守家庭児童対応の定員数(登録児童数)	①11,761人	①24,463人
②放課後キッズクラブの実施校数	②89校	②全校
③必要な分割・移転を行う放課後児童クラブ数	③12クラブ (25年度)	③必要な分割・移転を終えた全クラブ

◎全ての子どもたちが参加できる異年齢児間の遊びを通じた交流の場は全小学校に整備しており、継続して実施します。

○プレイパーク支援事業

公園等において子どもの創造力を生かした自由な遊びができるプレイパークの活動を支援します。

	【直近の状況】	【31年度末の目標】
活動支援回数	1,145回(年間延べ) (25年度)	1,240回(年間延べ)

○寄り添い型学習等支援事業

養育環境に課題がある、生活困窮状態にあるなど支援を必要とする家庭に育つ小中学生等に対し、安心して過ごすことのできる環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けたり、将来の進路選択の幅を広げ、自立した生活を送れるようにすることを目的に生活支援・学習支援等を実施します。

	【直近の状況】	【31年度末の目標】
実施区数	12区 (25年度)	18区

○子どもの体力向上事業

児童が主体的・日常的に体を動かす習慣を身に付けることを目的に、「いきいきキッズ事業」として、小学校の中休みや放課後を活用し、保護者やスポーツ指導者の協力の下、児童が関心を持てる運動やスポーツを紹介し、定期的に運動に親しむ機会を提供しています。

【25年度実績】参加者数：67,579人、実施回数：783回

○青少年育成に係る人材育成・活動推進

社会全体で子どもを育む取組を進めていくため、(公財)よこはまユースを中心に、地域で青少年を支える方たちが主催する研修会への講師派遣や、「青少年の居場所づくり」をテーマに支援者同士の情報交換や意見交換を行うフォーラムの開催等を通じて、青少年育成に取り組む人材を育成するとともに、青少年育成のための活動の活発化と効果的な推進を図ります。

	【直近の状況】	【31年度末の目標】
「子ども・若者どこでも講座」実施回数	43回 (25年度)	64回

○発達の段階に応じた連続したキャリア教育の推進

幼保小中高まで連続したキャリア教育を推進し、自分らしさを発揮しながら、社会とのつながりを実感するとともに、働くことの意義や尊さを理解し、将来に向けた自分の生き方を見出していくことのできる力を育みます。

	【直近の状況】	【31年度末の目標】
小中一貫教育推進ブロックごとのキャリア教育実践推進ブロックの指定	4ブロック (25年度)	18ブロック

【コラム】青少年健全育成活動の推進役～青少年指導員について～

地域の青少年健全育成活動の中心的な存在として、約 2,600 人（平成 26 年 4 月時点）の青少年指導員が市長から委嘱され、様々な活動を行っていることをご存知でしょうか？

青少年指導員は、地域の自治会・町内会や、子ども会などの青少年関係団体、青少年関係機関、更にはスポーツ推進委員、民生・児童委員など地域の関係者と連携をとりながら、レクリエーションやスポーツ活動のほか、青少年に望ましい地域づくりのためのパトロールや社会環境調査、あいさつ運動、青少年指導者の育成など、地域の実情に応じた様々な活動を行っています。



「あいちゃん」は、青少年にやさしい環境を願ってつくられた、横浜市青少年指導員のシンボルマークです。



活動事例（青少年指導員主催による港北区ベクトルロケット大会の様子）

社会環境の変化とともに、青少年指導員に対する社会的要求や期待も変化していきますが、青少年の育ちにとって、身近な地域における人とのつながりが大切であることは変わりありません。

地域ぐるみで青少年を育成するための推進役として、青少年指導員の役割はますます重要となっています。